

30年6月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 6月1日～ 30年6月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
入荷動向	スギ	10.0	12.5	12.5
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	10.0	0.0	△ 12.5
	トドマツ	0.0	0.0	△ 25.0
消費動向	スギ	30.0	0.0	△ 12.5
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 16.7
	カラマツ	20.0	0.0	△ 16.7
	トドマツ	0.0	0.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	△ 20.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	△ 12.5	△ 25.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0

・スギの入荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは6月の増加から7月は横ばい、8月は減少に。トドマツは6月、7月の横ばいから8月は減少に。

・スギの消費動向は6月の増加から7月は横ばい、8月は減少に。ヒノキは6月、7月の横ばいから8月は減少に。カラマツは6月の増加から7月は横ばい、8月は減少に。トドマツは6月、7月の横ばいから8月は減少に。

・スギの在庫動向は6月の減少から7月、8月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは6月の横ばいから7月、8月は減少に。トドマツは3カ月連続減少。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/6月	7月	8月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
米マツ	25.0	50.0	50.0
北洋カラマツ	25.0	50.0	50.0
その他	0.0	0.0	0.0

・合板用原木の購入価格動向はスギ、ヒノキ、カラマツ、その他とも横ばい推移。

・米マツ、北洋カラマツは強保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・6月は総生産量が増えるためスギ、カラマツとも増加。現状では安定した入荷となっている。生産に合わせての入荷で、入荷分は消費する。
・4月よりカラマツの仕入れを増やしており、工場稼働日数増によりスギの入荷も増やす予定。稼働日数増により原木消費量も増加する見込みだ。消費量分を入荷するため在庫に大きな変化はない。
・カラマツは6月まで入荷を抑える。カラマツを主体に消費。在庫は変わらず。
・先月までスギ丸太が不足気味であったが、徐々に計画数量に戻りつつある。生産計画通り消費している。計画に対してスギ丸太在庫が減少。
・土場満杯のためスギ・ヒノキとも入荷制限中。消費は稼働日数で決まる。当月増加、翌月横ばい、翌々月減少。在庫は横ばいをキープする。

(原木価格)

・スギ横ばい。カラマツは強含みの横ばい。久々に北洋カラマツ丸太を購入するが、以前購入時より上昇している。
・国産材は虫害時期や国有林の生産請負を控えているため、若干強含みを予想。外材も今後山火事等の供給不安が懸念されるため、価格は横ばいと予想する。
・カラマツ、北洋カラマツともに高値で推移。
・高止まり傾向。7月以降について価格調整、品質面及び低単価望む。

30年6月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
生産動向	構造用(9mm)	10.0	0.0	△ 12.5
	〃 (12mm)	16.7	0.0	△ 10.0
	〃 (15mm)	25.0	0.0	△ 10.0
	〃 (24mm)	16.7	0.0	△ 10.0
	〃 (28mm)	25.0	0.0	△ 10.0
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 8.3	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 8.3	0.0	0.0
	〃 (24mm)	8.3	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	16.7	0.0	0.0
	〃 (15mm)	16.7	0.0	0.0
	〃 (24mm)	8.3	0.0	0.0
	〃 (28mm)	16.7	0.0	0.0

- ・ 構造用合板の生産動向は全ての品目で6月の増加から7月は横ばい、8月は減少に。
- ・ 出荷動向は、9mm、28mmは3カ月連続横ばい推移。12mm、15mmは6月の減少から7月、8月は横ばい。24mmは6月の増加から7月、8月は横ばいに。
- ・ 在庫動向は、9mmは3カ月連続横ばい推移。12mm、15mm、24mm、28mmは6月の増加から7月、8月は横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/6月	7月	8月
構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (12mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (24mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0

- ・ 構造用合板の出荷価格動向は全品目横ばい推移。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・ 全品目で生産増。9mm以外はほぼ横ばいから微増の出荷。端境期により荷動きが鈍くなってきている。9mm以外は生産増加分在庫増える。
- ・ 少量生産に付き変化なし。

(構造用合板の価格)

- ・ 荷動きは悪いが価格は維持している。
- ・ 春先より荷動きが鈍いが、今後荷動きが回復してくると思われるため価格は横ばいを予想する。
- ・ 全品目変化なし。
- ・ ほぼ横ばい状態。